

日本比較文化学会

## JACC 比較文化会報

本部：〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3  
 同志社大学言語文化教育研究センター 香柏館611 長谷部陽一郎研究室  
 事務局（並びに会報編集）：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53  
 新島学園短期大学 高山有紀研究室  
 会長室：〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3  
 同志社大学文化情報学部 夢告館715 山内信幸研究室  
 学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

## 日本比較文化学会に期待するところ

日本比較文化学会会長 山内 信幸

日本比較文化学会会長に就任以来1年が経過いたしました。本学会の等身大の姿について会長としての雑感を記してみたいと思います。

現在、当学会は全国各地に5支部を擁し、海外会員も含め、約450名の会員を有する規模にまで成長を遂げてまいりました。それぞれの支部が編集担当となって発行される学会誌『比較文化研究』は、毎号数多くの会員の積極的な投稿によって興味深い論考が多数収録されており、直近に発行された86号（関西支部編集担当）は240ページを超える大部のものとなっています。また、本年、久留米大学で行われました全国大会では、会場施設の都合の関係もありましたが、研究発表をお断りせねばならないほどの多くの申し込みがあったと聞いております。各大学にも「比較文化論」あるいは「比較文化研究」の名称を冠する講義が多く開講され、いわゆる、学問としての「市民権」も獲得してきた感があります。

近年、高等教育を取り巻く環境は激変し、本来の教育研究活動に割かれるべき時間は年々減少しつつあり、その余波は学会活動にも少なからぬ影響を及ぼしてきています。その中で唯一の光明と思えるものとして、私事で恐縮ですが、勤務校での職責としてかかわっている国際連携推進事業において、世界の大学・研究機関を相手にして、どのようにして国際的通用性を担保するかということの日々考えなければならない状況に置かれて初めて、学会活動においても国際的環境のなかで本学会のプレステージをどうしたら高めることができるかを現実の課題として認識できるようになりました。

幸いにも、すでに学術交流協定を結んでおります韓国日本文化学会に加えて、昨年末には台湾日本語学会とともに連携することとなりました。現在、韓国と台湾の両学会同士の交流協定の話も進んでいると漏れ聞いております。これがかなえば、本学会が要となって東アジアにおける学術交流トライアングルが形成されることになり、国際的なレベルにおける会員相互の活発な交流が期待されます。私にとっては、いままでは「世界」という場はまったく手の届かないものと思ってまいりましたが、実際はほんの少し背伸びをすれば容易に触れることのできる世界であると実感できるようになりました。

本学会は今後さらなる発展が期待されている学会です。その実質を支えていただけるのは会

員の皆様方の積極的な学術活動に他なりません。本学会に対してどうかこれからもいっそうのご理解・ご支援をお願いする次第です。

## 《第31回全国大会》 第31回大会を振り返って

崎村弘文（久留米大学）

第31回日本比較文化学会（同志社大学・山内信幸会長）全国大会が、2009年6月13日に本学御井学舎において開催された。九州での全国大会は2005年に福岡女学院大学において開催されたのに続き、4回目で久留米大学での開催は二度目となった。

午前中は「非都市の文化」のテーマでシンポジウムが行われた。本年度は学術協定校の韓国の韓瑞大学の張世哲教授また台湾の淡江大学の落合由治教授をシンポジストとして迎え、国際的な観点からの問題提起が行われ、フロアとの活発な討議が続けられた。

午後の記念講演では、本学の薬師寺道明学長による「世界の文化の変遷と日本の医療事情」と題して、世界のレベルで変化しつつある政治・経済・文化が疾病に及ぼす影響と、我が国の疾病構造の変化を軸にお話をして頂き、会場は大盛況であった。

講演会の後、八つの分科会に分かれ、40件の研究発表が行われ、その専門分野も、文学・言語・教育・歴史・社会・経済・医療・宗教と多岐にわたり、本学会に相応しい学際的なものであった。混乱する政局、環境破壊、少子高齢化、異常気象、格差社会など世界を取り巻く状況はますます厳しいものがある。今後更なる諸分野の専門家たちの協力が重要視されることは間違いない。

最後に本学会に協力、ご援助を頂いた関係者各位に心から感謝いたします。

## 総会報告

事務局長 高

山有紀

2009年6月13日（土）13時20分より、第31回全国大会の会場となった久留米大学御井キャンパスの800号館82B教室において、総会が開催されました。進行および議長は山内信幸会長が担当されました。以下、概要を報告いたします。

同日午前中に開催された理事会の議を受け、まずは2008年度事業報告と2008年度収支決算報告および会計報告があり、承認されました。2008年度は、台湾日本語文学会との学術協定が結ばれたほか、海外での国際学会等での発表に伴う外国旅費補助に関する申し合わせの施行や、全国大会研究発表およびシンポジウム発表申し合わせに関する申し合わせ（2009年4月より施行）が制定されるなど、新事業が次々に行われました。これら事業の内容については、学会HPに掲載されていますのでご参照ください。

つづいて、2009年度の事業として「学会運営のさらなる円滑化」「会費納入の促進と新入会員の勧誘などを含む財政基盤の安定化」「研究活動の国際化」のそれぞれ推進をはかっていく計画に加え、2009年度予算の報告が行われ、いずれも承認されております。

このほか、2010年度第32回全国大会および総会は関東支部の所管で開催されること（新島学園短期大学）、太田敬雄前会長の名誉会長就任、「日本比較文化学会賞」を制定についても

承認されました。

2008年度日本比較文化学会 決算			
科 目	2008年度予算	2008年度決算	
I 収入の部			
1、資産運用収入			
利子	3,700	5,596	
2、会費収入			
一般会員	1,940,000	1,561,000	
賛助会員	10,000	10,000	
3、事業収入			
『比較文化研究』配布収入	10,000	0	
4、寄付収入			
寄付収入	0	0	
5、その他			
その他	0	0	
当期収入合計 (A)	1,963,700	1,576,596	
II 支出の部			
1、大会開催関連費			
第31回大会費	300,000	300,000	
第31回大会 海外会員補助	50,000	50,000	
2、支部運営補助費			
支部運営補助費	50,000	50,000	
3、『研究』発行費			
編集補助費	500,000	543,200	
発送費	360,000	333,019	
4、会報編集費			
編集補助費	20,000	20,000	
5、管理費			
事務局費	50,000	20,836	
交通費	100,000	3,000	
通信費	20,000	13,950	
事務費	30,000	30,000	
会議費	400,000	291,550	
印刷費	10,000	0	
HP管理維持費	50,000	45,150	
手数料 (振込み等)	35,000	28,035	
その他		1,117	
6、予備費	200,000	235,536	
当期支出合計 (B)	2,175,000	1,965,393	
当期収支差額 (A) - (B)	-211,300	-388,797	
前期繰越額 (C)	3,530,956	3,530,956	
次期繰越額 (A) - (B) (C)	3,319,656	3,142,159	

《事務局より》

○会費納入のお願い

会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。3年を超えて未納の場合には会員資格を失うこととなりますのでご注意ください。2009年度分の振り込み用紙を同封させていただきます。なお、今月(9月)納入された方は、行き違いになりますがお容赦ください。納入したかどうか不確実な場合には、事務局(高山)までお問い合わせください。

会費納入の郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名：日本比較文化学会  
振り込みの際には、所属支部と何年度分の会費であることを明記してください。

2009年度日本比較文化学会予算		
科 目	2009年度予算	摘要
I 収入の部		
1、資産運用収入	0	
利子	3,700	
2、会費収入		
一般会員	1,915,000	
賛助会員	10,000	
3、事業収入		
『比較文化研究』配布収入	10,000	
4、寄付収入		
寄付収入	0	
5、その他	0	
当期収入合計 (A)	1,938,700	
II 支出の部		
1、大会開催関連費		
第32回大会費	300,000	
第32回大会・海外会員補	50,000	
海外提携学会参加費補助	160,000	
2、支部運営補助費		
支部運営補助費	50,000	
3、『研究』発行費		
編集補助費	550,000	
発送費	360,000	
4、会員活動補助費		
若手研究者海外渡航費補助	150,000	
5、管理費		
事務局費	35,000	
交通費	70,000	
通信費	20,000	
事務費	30,000	
会議費	200,000	
印刷費	5,000	
HP管理維持費	50,000	
手数料(振込み等)	35,000	
その他		
6、予備費	150,000	
当期支出合計 (B)	2,215,000	
当期収支差額 (A) - (B)	-276,300	
前期繰越額 (C)	3,142,159	
次期繰越額 (A) - (B) (C)	2,865,859	

## 《委員会報告》

### 「日本比較文化学会賞」制定にあたって

編集委員長 野口

周一

このたび、「日本比較文化学会賞」を制定いたしました。その目的とするところは、比較文化研究に従事する若手研究者の業績を顕彰して、その研究の発展に資することにあります。

そのために、次のように若干の条件を設けさせていただきました。(1)授与資格：本学会員で、原則として40歳未満の者とする。(2)授与対象：当該年度における『比較文化研究』に発表された論文等において示された優秀な業績を対象とする。(3)授与人数：毎年1回3名を原則とする。該当者がいないときには授与しない。(4)選抜方法：授与候補者の選考は、本学会の役員及び支部編集委員の推薦に基づき、編集委員会をもって構成する選考委員会において行う。——なお、選考手続きについては鋭意検討中であります。

今後、本学会賞がどのようなものになっていくか。それは、『比較文化研究』がどのような研究者をはぐくむ研究誌になっていくかということと軌を一にすると考えられます。昨年度、私が編集委員長に就任いたしました際、「良質な研究者を育てるための研究誌を目指して」と題しまして、太田会長（当時）が「この学会の本来のあり方は、投稿論文を『審査』して落とすのではなく、少しでも良質なものにするために『助言』をしていくことにある」というお話をご紹介いたしました。

本学会賞の趣旨も、そこに帰着すると思われまふ。ただ、それは審査を甘くするというのではなく、また賞を安易に濫発することでもありません。研究者が専任職に就いているか、非専任であるかということでもないと思ひます。当該研究者が、斬新な発想を持ち、斯界にどのような豊かな実りをもたらすのか、その可能性を問うことであるかと考へております。

折しも、本学会は昨年創立30周年という節目を迎えました。栄えある第1回日本比較文化学会賞の授与式は、2010年6月12日、第32回全国大会総会において行われまふ。

## 《支部報告》

### 東北支部

\*2009年9月12日（土）関東・東北合同支部大会

東京未来大学に於いて開催しまふ（関東支部の活動報告参照）。

\*2009年10月31日（土）東北支部大会

弘前学院大学に於いて開催しまふ。研究発表を希望する会員は、10月17日までにA4版1枚以内で要旨を東北支部まで送付して下さい。

送付先は、036-8577 弘前市稔町13-1 弘前学院大学文学部佐藤和博まで。または sato@hirogaku-u.ac.jp まで。 支部長 佐藤和博

### 関東支部

\*2009年9月12日（土）東北・関東支部第3回合同研究発表会、第21回関東支部研究発表会（於東京未来大学）

(1)三浦幸子 「中等英語教育におけるコミュニケーション方略の提示と指導--中学校検定教科書で使用されている表現例の分類、分析を通して」

- (2)笠原慎一郎 「心の変化の原因 ‘The Artist of the Beautiful’ における一考察」  
 (3)中村友紀 (関東学院大学) 「The Witches of Lancashire の共同体のリミナリティ」  
 (4)高橋栄作(弘前大学(非)) 「The ability or inability with ICT Education」  
 (5)佐藤和博 (弘前学院大学) 「Alexander's Bridge の主人公のモデルについて」

支部長 野口周一

## 関西支部

関西支部では、昨年10月、12月に引き続き、本年は3月に例会を開催して、2008年度の活動を締めくくりました。そして、本年度は10月、12月、3月に例会を予定しております。関西支部に所属され、研究発表をご希望の方は、ふるってご応募いただきますようお願い申し上げます。関西支部では、今年度も新入会員の方々をお迎えし、活発な支部活動を行ってまいります。

### \*3月例会

日時：2009年3月7日(土) 14:30~17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館3階会議室

### I 研究発表：

#### 1、喜多野裕子 (神戸市外国語大学非常勤講師)

「じゃじゃ馬の母—『じゃじゃ馬ならし』とブロードサイドバラッドについて」

#### 2、山田良 (同志社大学嘱託講師)

「毒と砂糖の匙加減—The School for Scandal における wit と sentimentalism」

### II 講演：

北尾敬子先生 (京都橘大学学生相談室カウンセラー)

「コミュニケーション能力を高めるトレーニング」

支部長 北林利治

## 中・四国支部

\*2009年関西・中四国・九州三支部合同研究会

発表をご希望の方は、高知大学人文学部奥村研究室、または各支部の支部長にご連絡ください。

なお、レジュメの締め切りは9月30日となっています。

日時：2009年11月28日(土) 13:00~17:00

場所：徳島文理大学

### スケジュール：

13:00 受付開始

13:30 研究発表会

16:20 「2010への指針」(三支部長と次年度を語る)

17:00 閉会の辞

17:00 懇親会(会費4500円)

連絡先は780-8720 高知市曙町2-5-2 高知大学人文学部奥村研究室

e-mail koku@cc.kochi-u.ac.jp

支部長 奥村訓代

## 九州支部

\*2009年6月13日(土) 第31回全国大会(於久留米大学)

\*12月に関西・中四国・九州三支部合同研究会(於徳島文理大学)、3月に第22回九州支部大会を長崎で開催予定です。

支部長 市川郢康